

密度可変柄出し装置の性能評価と繊維製品の開発に関する研究

「染織加工」

「研究機関/研究者」 素材応用技術支援センター ◇古畑 雅弘、松本 好勝、橋詰 史則
「委託先」 吉澤織物株式会社

■ 目的

当センターで開発した密度可変柄出し装置の実生産での活用を視野に入れ、装置の性能把握と各種の糸で実証試験を行い、商品展開の可能性について研究する。

■ 研究内容

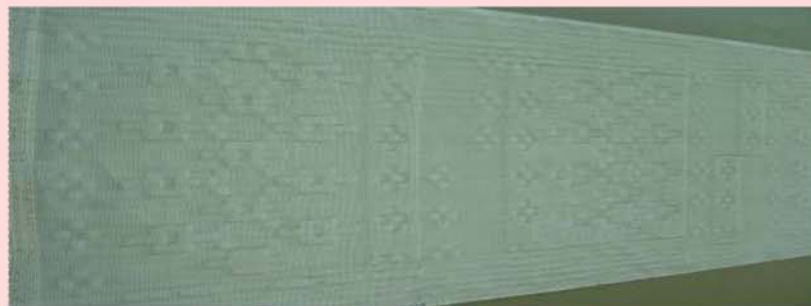
- 1 柄表現の対応力試験
(デザイン柄と織物柄の組み合わせ)
- 2 よこ糸の素材の違いによる柄の表現試験
- 3 製織性能試験

■ 研究成果

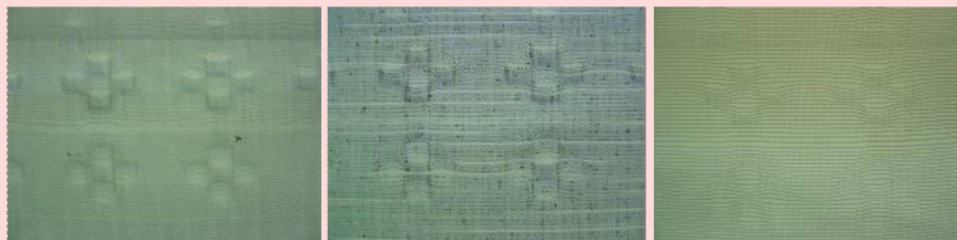
- 付加価値の高い商品開発が可能となることから、委託企業が装置の導入を決定した。
- 1 同一織物柄でもデザイン柄や光の入射角により、立体的な凹凸感が浮かび上がり、全く異なった織物表情を創出することができた。
 - 2 シャンプレー調の織物ほど、密度変化による効果が鮮明に現れることが分かった。

■ 成果の展開

- 1 実生産用の装置開発
- 2 オンリーワン商品の開発
- 3 広幅織機への展開



【デザイン柄による表情の違い】



【よこ糸による表情の違い】

用語解説

密度可変柄出し装置とは：
簇羽に凹部を設け、よこ糸に密度変化を作り出す装置。